

ほちほちにか

2020年11月13日

桜井谷小学校

5年図工通信 第6号

発行者：古田 みちる

出場選手 勢揃い

前回、子どもたちの設計図を紹介しましたが…ついに、作品が完成！あれから、子どもたちは①アルミニウムの針金での骨格作り②紙粘土で肉付け③土台（背景、必要なパーツ）づくりの工程を着々と進めていきました。

今回の苦戦ポイントは…

① アルミニウムの針金を操れず…

→全身の骨格をつくる時、手足のバランスをねじって調節することに苦戦！ものすごく腕の長い人や、首の長い人などが誕生してしまうこともあり、なんとかねじって長さを調整したものの思わず笑ってしまうような骨格ができてしまう子もいました。作った骨格を見てものすごく不安そうにしている子もいましたが、紙粘土で肉付けをしていくとそのような気になる部分も誤魔化せます。

② 紙粘土に思う色を着色できず…

→今回、クレイ粘土というとてもよく伸びる粘土を使ったので、気が付けば粘土をこねる子が沢山！粘土の触感を楽しんでくれていて嬉しかったです。粘土でお椀の形を作り、そこに着色したい絵の具を垂らし、こねて伸ばしてを繰り返すのですが、慣れない内は手が絵の具まみれになって流血事件が起きたのでは！？と思う程の手の色をしている子もいました（笑）

今回、5年生になって初めての立体作品に挑戦してみて、子どもたちのアイディアの豊かさに本当に驚かされることばかりでした。着せたい服のイメージをもって、フェルトを体のサイズに合わせて切って紙粘土に着せたり、靴1つ履かせるにしても毛糸を細かく切って靴紐を再現したり…。同じ競技でも、選ぶ1コマが違ったり、同じ1コマでも表現の仕方が違ったり…。

使う材料の工夫、選んだ1コマを再現する為の体の姿勢の工夫、より世界観を表現する為の選手が持つ競技道具や背景の工夫。友だちの工夫を見て、自分の作品作りに取り入れる姿がこれまでより多かったのも、今回の作品作りでの子どもたちの姿でした。

作品づくりの為に、様々な材料の持参にご協力くださりありがとうございました。完成した作品は、個人懇談の期間中に教室付近に掲示予定です。子どもたちの頑張りをぜひ見てください。



◆子どもたちの鑑賞カードより

- ・モールをリング代わりにしていて、とてもいいアイディアだと思った。
- ・ラケットの網目や足の向きなど、細かいところまできちんと作られている。
- ・はねが壁につけたのがとてもよい発想だと思いました。
- ・壁や床の模様が描いてあってきれい。